

令和5年度 さかえホーム 事業報告書

1 総括

令和5年度も開設年度の3年度から引き続き、人材の確保及び育成と利用者支援の充実を中心に事業に取り組んだ。両方とも少しずつ成果は上がっているものの、まだ多くの課題があり、今後も引き続き重点課題として取り組んでいく必要がある。

人材確保については、9月に正規職員を1名採用したことにより、計画通り管理者を含めた正規職員3名の体制になった。これにより、職員の勤務のコーディネート、職員間の情報伝達や共有、緊急時の代替職員の配置などが、以前よりがスムーズに行われるようになったが、近年の求人難の状況は変わらず、安定した支援体制に必要な職員の採用者数には至っていない。管理者の現場支援や職員の勤務増などで支援体制を何とか確保している状況である。

利用者支援の充実においては、個々の利用者の特性理解や関係性の構築は進んでいる。しかし、PDCAサイクルに基づいた支援（支援支援方針の統一、記録、評価）や利用者の衛生管理や身だしなみなどきめ細やかな支援が不十分となった。次年度以降も職員全般の支援スキルの向上に力を入れていきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 さかえホーム（ユニット：すずらん、あやめ）
- 2) 事業種別 共同生活援助（日中サービス支援型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町二丁目1番15号
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 14名（令和5年3月31日現在）（すずらん7名、あやめ7名）
- 6) 利用現員 14名（令和5年3月31日現在）（すずらん7名、あやめ7名）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 令和3年4月1日
- 9) 職員（令和6年3月31日現在）
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名
 - 世話人 8名
 - 生活支援員 14名

- 3 基本理念
 - 一人ひとりの自己実現の支援
 - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
 - 安心と希望のもてる生活

- 4 基本方針
 - 1) 安定した日常生活の保障
 - 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
 - 3) 入居者の相談支援
 - 4) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 日中グループホームで過ごす方への必要な支援
- 7) 入浴等生活行為の支援
- 8) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
	）	希望者は日中グループホーム内で過ごす
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	23時00分	就寝

7 重点課題

1) 活動

- (1) 入居者が安心し、充実した生活を送れるよう支援する。
- ① 本人の状況を丁寧に観察すると共に、家族や日中活動先等と情報共有を密にし、一人ひとりに丁寧な支援を行う。
 - ② 入居者と信頼関係を築くと共に、入居者間の人間関係に配慮し良好な関係が築けるようにする。
 - ③ 安心できる環境づくりを行う（空間・関係性・関わり方・健康管理 など）。

【成果と課題】

開設後3年が経過し、入居者の殆どは新しい環境に慣れ、概ね安定して過ごせているように感じる。しかし、生活の変化との因果関係ははっきりしないが、排泄リズムの乱れなどが見られる入居者もあり、ホームでの生活の定着の度合に個人差も見られている。また、8月より1名の入居者が他の入居者との相性により、長期間自宅へ帰宅しており、3月末現在ホーム利用再開の目途がたっていない。入居者と職員の関係構築は進んでおり、全般的に良好な関係が築けているが、入居者の身だしなみや、日用品の衛生管理など家庭で行われていたきめ細かな気遣いが不足していることが多々見られた。11月に基本的な身だしなみや衛生に関する支援事項を明記し全職員への周知を図り、数名の職員に効果が見られているが、全職員への浸透には至っていない。

④ 感染症発生時の対策強化

【成果と課題】

8月末に入居者1名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、5日間自宅療養となったがホーム内での感染拡大には至らなかった。建物内の消毒、検温、換気、職員のマスク着用等は継続して行った。

⑤ 事故防止を徹底する

- ・薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
- ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。
- ・入居者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

9月に入居者1名が日中にグループホームから一人で外出中、熱中症で救急搬送された。一時は意識がなく、救命医療病棟への入院となったが、体調が回復し1週間後に退院することができた。水分補給や季節に応じた服装の重要性について改めて職員へ周知した。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

家族等と密に連絡をとりながら、現在必要な支援内容の確認や将来希望する生活について聴取し、これに基づいた支援を行う。また、法人内のみらいホームが取り組み始めた、全入居者の家族が行っている支援とグループホームが行っている支援を整理した「生活のノート」(通院、買い物、行政手続き、小遣い管理、散髪など)の作成を行い、グループホームへ移行する支援内容や移行時期を家族と共有する。

【成果と課題】

ホームでの生活の様子を知りたいとの家族の希望に応え、面談を1件行った。本人の様子を伝えたところ、安心したとの話があり、特に要望等はなかった。生活に必要な手続きについては、現在、2名の入居者に対し通院同行、日中活動先における手続き、預り金管理等を行っている。その他の12名は、生活のコーディネート等をすぐにグループホームへ移行したいという希望は出していない。また、事業計画では、家族が行っている支援を段階的にグループホームに移行する計画を作成することになっていたが、前述の通り、すぐにグループホームへ支援を移行したいという希望がでていないことから、事業中間報告の際に精査し当面は移行計画の作成を行わないこととした。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画を全職員で共有する。
- ③ 個別支援計画に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

個別支援計画については、支援方針や手法等の具体的な内容が記載されていないものが多く、実際に支援に活用できる内容となっていなかった。結果的に支援方針の職員間の共有、計画に基づいた支援の実施とその記録、評価の全てにおいて不十分にならざるを得ず、全般的に意識改革、スキルの向上が必要といえる。また、ケース記録においては、昨年度と比較して、利用者の一日の流れを丁寧に記載するようになってきているが、心情面も含めた利用者の様子、家族や関係機関との共有事項等については記録が残されていないことあるなど課題が残った。

2) 人材確保と育成

(1) 常勤換算 13.5 名の支援体制の安定確保

主たる職員 1 名、生活支援員等約 4 名を新規に採用する。

(※ 計画作成時の令和 5 年 2 月末現在常勤換算 11.3 名)

【成果と課題】

年度当初 12.5 名でスタートし、年度途中に主たる職員 1 名を採用したが、生活支援員等が 2 名（常勤換算 1.3）退職し、常勤換算は、12.2 名で目標には達しなかった。

(2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る。

① 情報共有

管理職や主たる職員からの申し送り及び周知事項の伝達の徹底、入居者予定表・ケース記録・業務日誌・引継ぎノートへの記入の精度向上と確認の徹底により、入居者の支援状況等を職員間で共有する。

② 業務標準化

職員への個別指導の強化、研修の実施等で全般的なスキルアップを図る。

【成果と課題】

入居者の予定や体調面の申し送り、事務連絡等の周知事項等は、引き継ぎノートを活用し、職員が出勤時に確認することとしているが、記載もれや職員によってはノートを確認しない、確認後のチェックをしないなど基本的な業務に課題が多い。管理者や主たる職員から口頭による申し送りにより、業務の引き継ぎは滞りなく行えているが、出勤していない職員にはその間の入居者の情報が共有されない場面もみられる。支援の継続性やチームによる支援という考えか不足し、その時々職員個々の考えや感覚での支援になりがちであった。1) - (3) にも記載の通り、支援方針の統一やケース記録の充実等にも課題があり、全般的に業務の標準化は不十分である。

2) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 在庫管理による無駄な消費の削減を行う。

【成果と課題】

消耗品の在庫管理を実施し、無駄な支出は抑えられている。

(3) 入居者の経済的負担の軽減

① 節電、節水等節約の履行

③ 計画的な食材の購入

【成果と課題】

節電、節水に取り組み前年度比で、水道光熱費は約 50 万円の減少となった。給食費については、計画的な購入に努めたが、食材費高騰の影響と利用実績の増額に伴い、約 25 万円増額となってい

る。食費と水道光熱費の合計では前年度比で約25万円の減額となった。

【その他の課題】

令和3年度及び4年度の入居者の利用料（実費分）の精算が大幅に遅れ令和5年9月に行われた。5年度分は決算額が確定した5月上旬に精算が完了した。

（4）訓練給付費収入等の安定確保を行う。

- ・目標利用率： 約70%

【令和5年度目標額】

・訓練給付費収入	約3,000万
・都加算収入	約1,150万
	<hr/>
	約4,150万

【成果と課題】

利用率は68.3%となった。目標の70%を下回ったが、障害支援区分の高い入居者の利用実績が増加し、訓練等給付費及び都加算の収入合計は目標の4,150万円を約464万円上回った（前年度比約209万円増）。

	令和5年度実績	令和4年度実績	増減
利用率	68.3%	64.8%	3.5%
訓練給付費収入	3,414万円	3,185万円	229万
都加算の収入	1,200万円	1,220万円	△20万
総額	4,614万円	4,405万円	209万

8 その他の課題・目標

1) 市内グループホームとの連携

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度より一時的に中止していたグループホーム連絡会（小平市内のグループホーム職員の交流会）が10月から再開され、今年度は10月と1月の2回開催された。10月は14団体、1月は10団体が参加し、10月は各事業所の現況報告、1月は職員間の情報共有及び申し送りの仕方について全事業所から報告された。特に1月の報告会では、質疑応答が活発に行われ、各事業所で苦慮していることや有効に活用できていることなどを共有することができた。次年度以降は4月、7月、10月、1月の年4回開催する予定である。

2) バックアップ施設による支援

入居者の健康管理等の相談を行った他、管理補助を行った。

<バックアップ施設>

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・夢風船

<実施した事項>

- ・入居者の健康管理等（けがや体調不良）看護師等へ相談
- ・外出支援（日用品の買い物、散髪等）
- ・行政等手続き等の補助（金融機関及び市役所）
- ・通院同行
- ・管理業務の補助

3) 夜間等緊急時の対応

緊急時は、管理者と主たる職員の中の2名の計3名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

4) 世話人・法人意見交換会の実施

昨年度、世話人（主たる職員）と法人役員との懇談を行い、法人の役員にグループホームの現状を知ってもらう機会となった。その際、世話人より、法人役員やグループホームの主たる職員から希望等があれば、いつでも意見交換等を行える場を作りたいとの意見があったが、今年度は、法人へ具体的に依頼することは現時点では思い当たらないとのことで意見交換会は実施しなかった。

9 事故報告

7-1) (1) ⑤に記載。

10 実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：令和5年4月1日	至：令和6年3月31日
(1) すずらん		365日	
(2) あやめ		365日	

11 利用状況

1) 入居者延人員	3,502人
2) 一日平均利用人員	9.6人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
すずらん	1,912人	5.2人
あやめ	1,590人	4.3人
合計	3,502人	9.6人

12 入居者状況（令和6年3月31日現在）

1) 年齢

- ・30歳以上40歳未満 7名
- ・40歳以上50歳未満 7名

ユニット	30代	40代
すずらん	3名	4名
あやめ	4名	3名
合計	7名	7名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

愛の手帳 2 度	9 名
愛の手帳 3 度	2 名
愛の手帳 4 度	2 名 (内身体障害者手帳愛の手帳所持 1 名)
身体障害者手帳 3 級	1 名
身体障害者手帳 4 級	1 名 (内愛の手帳所持 1 名)

(2) 障害支援区分

・区分 2	1 名
・区分 3	1 名
・区分 4	4 名
・区分 5	3 名
・区分 6	5 名

ユニット	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
すずらん			2 名	2 名	3 名
あやめ	1 名	1 名	2 名	1 名	2 名
合 計	1 名	1 名	4 名	3 名	5 名

3) 居住状況

管内居住	11 名	管外居住	3 名
------	------	------	-----

4) 性別

男性	14 名
----	------

1.3 環境の整備

グループホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

1) 新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を徹底する。

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、入居者で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、他の入居者及び家族等へ情報提供を行った他、共有スペースでの入居者同士の接触を最小限にするなど感染対策を実施した。また、希望する職員及び利用者に新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。感染者は 2 名発生したがホーム内で感染が拡大することはなかった。また、罹患した入居者も重症化することはなかった。

2) 健康診断・身体測定の結果を基に健康状態の把握に努めるとともに、関係事業所や家族との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

健康診断の結果を元に家族と相談し、食事量の調整を行う入居者や栄養バランスを意識した食事作りを行った。大きく体調を崩す入居者はなく、皆概ね良好な健康状態が維持出来た。

1.1 防災

災害時避難訓練を年 2 回実施した。